

シスコ IT ブリーフィング情報

SAFe チームの行動をより迅速に。そのために、Cisco Spark にツールチェーンを統合

Cisco Customer Care IT 部門は、Scaled Agile Framework (SAFe; 大規模アジャイル開発フレームワーク) を使用しています。これにより開発チームは、アジャイル開発手法を大規模に実践できています。SAFe では、7 ~ 9 人のメンバーから成る複数のアジャイル スクラム チームがそれぞれ特定の機能または機能セットを全面的に担当し、各チームが並行して作業を行います。SAFe ツールは、各機能セットの完成済みコードを自動的に単一の稼働中アプリケーションに統合し、完了済みのアプリケーションコードのリリースを迅速に配信することができます。SAFe は、リリースの迅速化、生産性の向上、品質の改善に役立ちます。「SAFe での最終的な目的は、シスコのソフトウェアによってカスタマー エクスペリエンスを継続的に改善することにあります」と、シスコ グローバル サービス ロジスティクス/オペレーションズ IT のサービス オーナーである Heather Yurko は述べています。

迅速に行動するには、チーム メンバーが互いに情報を共有する必要があります。また、DevOps ツールからの情報も必要です。たとえば、ソフトウェア ツールの Jenkins は、ビルドの成功/失敗を自動的にレポートします。SonarQube と CheckMarx は、ソース コードの品質を分析します。Artifactory は、ソフトウェア開発中に生成されたアーティファクトを追跡します。以前、開発者は、DevOps ツールから最新のステータスを電子メールで受け取っていました。

しかし、電子メールのアラートでは、パイプラインに遅延が生じていました。たとえば、バンガロールのエンジニアが、午後 11 時にコードを Jenkins にプッシュしてから就寝したとします。コンパイル時間が 2 時間とすると、完了したとき、エンジニアは熟睡しています。一方、カリフォルニア州サンノゼでは勤務時間の最中です。カリフォルニア州のエンジニアが電子メールを頻繁に確認しなくても、DevOps ツールがタスクを完了した瞬間にそれを知ることができたらどうでしょう。そうならば、フォローザサン方式 (時差を利用しての 24 時間常時開発) が実現し、新機能導入までの時間を短縮できます。「ツールチェーン データの確認、メッセージ送信、グループ会議の開催を 1 カ所でするようにしたいと望んでいました」と、シスコの IT アーキテクトの Anand Sharma は述べています。

人とマシンのコミュニケーションスペース

シスコ IT 部門は、Spark API を使用してツールチェーンを Cisco Spark に統合することで、シンプルかつ強力なソリューションを迅速に構築しました。Cisco Spark は、メッセージング、会議、通話を行うための仮想会議室を、数の制限なく提供するクラウド サービスです。現在、シスコの DevOps ツールは、Spark ルームにもステータス通知をプッシュしています。エンジニアは、新しいメッセージが到着すると、その送信元が人であっても DevOps ツールであっても、自分のすべてのデバイスで Spark の通知を受信できます。Cisco Spark と統合したツールには、Git、BitBucket、Jenkins、SonarQube、CheckMarx、Artifactory、uDeploy などがあります。統合に要した時間は、ツール 1 つあたり 10 分未満でした。

「今では、違う場所にいる同僚と話をする際にも、作業の実施状況を尋ねる必要がなくなりました」と Sharma は語ります。「Spark ルームで彼らのしたことがわかるので、次のステップについての話をすぐに始められます」

成功事例を 1 つ紹介しましょう。グローバル サービス ロジスティクス/オペレーションズ IT チーム (GSLO-IT) は、1,700 カ所のデポ間を移動する、年間 106 億ドル相当の在庫の動きをサポートするソフトウェアを開発しています。開発者は、米国 2 カ所、バンガロール、エルサレムで作業しています。「朝起きるとすぐ、夜間に見逃したコミュニケーションの内容やツールチェーンの最新ステータスをすべて確認できます」と、Yurko は言います。「Spark ルームによってスクラム チームが常に連携できるため、満足しています。また、開発者が情報を収集するために電子メールを探す手間も省けます。チーム メンバーが自律的に活動するために必要なツールと環境が提供されています」